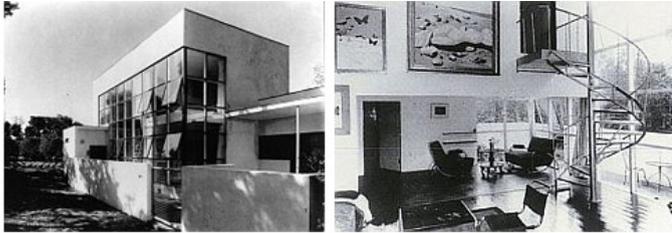


[TOP](#) > [中野の歴史](#) > [偉人とそのエピソード](#) > 【中野の歴史－偉人編4－】 アトリエのある街(三岸好太郎・三岸節子)[シェア](#)[ツイート](#)

【中野の歴史－偉人編4－】 アトリエのある街(三岸好太郎・三岸節子)

2017.03.03 UP 投稿者：まるっと中野編集部

[\[中野の歴史\]](#) [\[偉人とそのエピソード\]](#)

左／竣工時の三岸アトリエ 右／内部の様子(らせん状階段が斬新)

昭和9年(1934)、中野区上鷺宮の広漠とした畑の中に、白いモダンな建物が建ちました。画家三岸好太郎・節子夫妻のアトリエです。

三岸好太郎(1903～34)は若くして夭折した、大正時代を代表する画家の一人です。アトリエは、ドイツのバウハウス(1919～33年の14年間だけ存続した建築・美術の世界的な専門学校)に留学した新進気鋭の建築家山脇巖(1898～1987)に設計を依頼しました。山脇は三岸の様々な注文を受けて、3回も図面を引き直したそうです。

しかし、三岸は、心血を注いで建てたこのアトリエを見ることなく亡くなりました。アトリエの完成は妻で画家の三岸節子(1905～99)に引き継がれたのです。節子も昭和を代表する女流画家です。

この建物は、壁面は1階2階通して全面ガラス窓、1階にアトリエ・応接室・2階に書斎兼書庫が配置され、螺旋階段で2階に上がるというモダンな設計です。茅葺屋根の農家しかなかった当時、どんなにか目立つ建物だったことでしょう。

三岸節子はその後、昭和39年(1939)までここをアトリエとしていました。白鷺に住んでいた壺井 栄とも懇意にしており、「住めば都で、うれしいこともだんだん出てきた。そのまっ先が三岸節子さんとの出会いだった。」と壺井は述懐しています。

このアトリエは平成26年に国登録文化財になり、ご子孫の努力によりスタジオなど芸術活動に用いられ、保存が進められています。

(中野区立歴史民俗資料館 館長 比田井克仁)

※問い合わせ先の記載がない記事については、まるっと中野編集部までお問い合わせ下さい。

掲載場所近隣の区民の皆様にご迷惑をおかけすることをご遠慮いただきますよう、お願い申し上げます。

※掲載情報は全て記事取材当時のものです。